

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : **01-253648**
(43)Date of publication of application : **09.10.1989**

(51)Int.Cl.

G01N 27/30

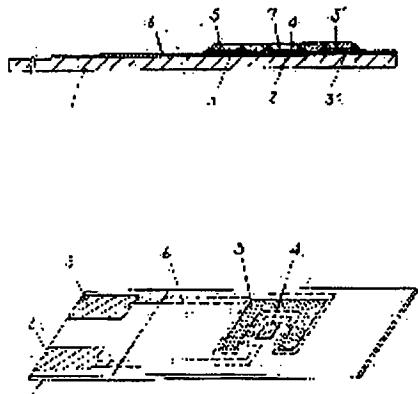
(21)Application number : **63-080829**

(71)Applicant : **MATSUSHITA ELECTRIC IND
CO LTD**

(22)Date of filing : **31.03.1988**

(72)Inventor : **NANKAI SHIRO
KAWAGURI MARIKO
FUJITA MAYUMI
IIJIMA TAKASHI**

(54) BIOSENSOR



(57)Abstract:

PURPOSE: To improve measuring accuracy, by providing an electrode system comprising a measuring electrode and a counter electrode whose main body is carbon on an insulating substrate, and providing an enzyme reaction layer comprising hydrophilic macromolecules and an oxidoreductase on the electrode system.

CONSTITUTION: An electrode system comprising leads 2 and 3 and a measuring electrode 4 and a counter electrode 5 whose main body is carbon is formed on an insulating substrate 1. The electrode system is partially covered. The exposed area of the electrodes is made constant. An insulating layer 6 covering the unnecessary area of the leads 2 and 3 is formed. Then, an enzyme reaction layer 7 comprising hydrophilic macromolecules and the oxidoreductase is formed at the constituted electrode parts. In this constitution, highly reliable response is obtained, and the concentration of the substrate material can be measured accurately.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than

the examiner's decision of rejection or
application converted registration]
[Date of final disposal for application]
[Patent number]
[Date of registration]
[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]
[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]
[Date of extinction of right]

⑫公開特許公報(A)

平1-253648

⑬Int.Cl.⁴

G 01 N 27/30

識別記号

353

序内整理番号

J-7363-2G

⑭公開 平成1年(1989)10月9日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全5頁)

⑮発明の名称 バイオセンサ

⑯特願 昭63-80829

⑰出願 昭63(1988)3月31日

⑱発明者	南海 史朗	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑱発明者	河栗 真理子	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑱発明者	藤田 真由美	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑱発明者	飯島 孝志	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑲出願人	松下電器産業株式会社	大阪府門真市大字門真1006番地	
⑳代理人	弁理士 中尾 敏男	外1名	

明細書

1. 発明の名称

バイオセンサ

2. 特許請求の範囲

(1) 絶縁性の基板上に、カーボンを主体とする少くとも測定極と対極からなる電極系を設け、前記電極系上に親水性高分子と酸化還元酵素からなる酵素反応層を備えたことを特徴とするバイオセンサ。

(2) 絶縁性の基板上に、カーボンを主体とする少くとも測定極と対極からなる2組の電極系を設け、一方の電極系上に親水性高分子と酸化還元酵素からなる酵素反応層を備え、他方の電極系上に親水性高分子層あるいは親水性高分子と失活させた酸化還元酵素からなる層を備えたことを特徴とするバイオセンサ。

(3) 電極系が、カーボンを主体とする測定極と対極および銀／塩化銀参照極からなる参照極であることを特徴とする請求項1または2に記載のバイオセンサ。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、種々の微量の生体試料中の特定成分について、試料液を希釈することなく迅速かつ簡便に定量することができるバイオセンサに関する。

従来の技術

従来、血液などの生体試料中の特定成分について、試料液の希釈や攪拌などを行なう事なく簡易に定量しうる方式として、特開昭61-294351号公報に記載のバイオセンサを提案した(第5図)。このバイオセンサは、絶縁性の基板1上にスクリーン印刷等の方法でカーボンなどからなる電極系8(8')，9(9')，10(10')を形成し、この上を酸化還元酵素と電子受容体を担持した多孔体12で覆い保持枠11とカバー13で全体を一体化したものである。試料液を多孔体上へ滴下すると、多孔体に担持されている酸化還元酵素と電子受容体が試料液に溶解し、試料液中の基質との間で酵素反応が進行し電子受容体が還元される。反応終了後、この還元された電子受

容を電気化学的に酸化し、このとき得られる酸化電流値から試料液中の基質濃度を求める。

発明が解決しようとする課題

この様な従来の構成では、電極系を含む基板面の濡れが必ずしも一様とならないため、多孔体と基板との間に気泡が残り、応答電流に影響を与えて反応速度が低下する場合があった。また、試料液中に、電極に吸着しやすい物質や電極活性な物質が存在するとセンサの応答に影響がみうけられた。

課題を解決するための手段

本発明は上記課題を解決するため、絶縁性の基板上にカーボンを主体とする少くとも測定極と対極からなる電極系を設け、電極系上に親水性高分子と酸化還元酵素からなる酵素反応層を備えたものである。

さらには、絶縁性の基板上に、カーボンを主体とする少くとも測定極と対極からなる2組の電極系を設け、一方の電極系上に親水性高分子と酸化還元酵素からなる酵素反応層を備え、他方の電極

-3-

脂バインダーを含む導電性カーボンペーストを印刷し、加熱乾燥することにより、測定極4、対極5からなる電極系を形成する。さらに、電極系を部分的に覆い、電極の露出部分の面積を一定とし、かつリードの不要部を覆うように絶縁性ペーストを印刷し、加熱処理をして絶縁層6を形成する。

次に、4、5(5')の露出部分を研磨後、空気中で100°Cにて4時間熱処理を施した。このようにして電極部分を構成した後、親水性高分子として、カルボキシメチルセルロース(以下CMCと略す)の0.5wt%水溶液を電極上へ展開、乾燥しCMC層を形成する。次に、このCMC層を覆うように、酵素としてグルコースオキシダーゼ(GOD)をリン酸緩衝液に溶解したものを展開し、乾燥させ、CMC-GOD層7を形成した。この場合、CMCとGODは部分的に混合された状態で厚さ数ミクロンの薄膜状となっている。

上記のように構成したグルコースセンサのCMC-GOD層の上へ試料液としてグルコース標準液を10μl滴下し、滴下1分後に電極間に1V

系上に親水性高分子層あるいは親水性高分子と失活させた酸化還元酵素からなる層を備えたものである。

作用

本発明によれば、極めて容易に精度よく基質濃度を測定することができ、かつ、保存性に優れたディスポーズブルタイプのバイオセンサを構成することができる。

実施例

以下、本発明を実施例により説明する。

(実施例1)

バイオセンサの一例として、グルコースセンサについて説明する。

第1図は本発明のバイオセンサの一実施例として作製したグルコースセンサの断面図であり、第2図はセンサ作製に用いた電極部分を斜視図で示したものである。

ポリエチレンテレフタレートからなる絶縁性の基板1に、スクリーン印刷により銀ペーストを印刷しリード2、3(3')を形成する。次に、樹

-4-

のバ尔斯電圧を印加することにより、測定極をアノード方向へ分極した。

添加された試料液は酵素、CMCを溶解し粘調な液体となりながら電極面上を速やかに拡がり、気泡の残留は認められなかった。これは、電極上に予め形成された親水性高分子層により電極面の濡れが向上したことによるものと考えられる。

一方、添加された試料液中のグルコースは電極上に担持されたグルコースオキシダーゼの作用で酵素と反応して過酸化水素を生成する。そこで、上記のアノード方向への電圧印加により、生成し過酸化水素の酸化電流が得られ、この電流値は基質であるグルコースの濃度に対応する。

第3図は、上記構成になるセンサの応答特性の一例として、電圧印加5秒後の電流値とグルコース濃度との関係を示すものであり、極めて良好な応答性が得られた。

(実施例2)

実施例1と同様にしてスクリーン印刷により、第2図に示した電極部分と同じもの2組をポリエ

チレンテレフタレートからなる1枚の絶縁性の基板上に近接して形成した。次に、2組の電極系の上に実施例1と同様にしてCMC層を形成した後、一方の電極系のCMC層の上にだけ前記同様にしてGOD-CMC層を形成した。

上記の様にして得られた2組の電極系を有するグルコースセンサについて、各々の電極系の上へ種々の濃度のアスコルビン酸を含むグルコース標準液(200mg/dl)を滴下し、実施例1と同様に、1分後に1Vの電圧を印加し、5秒後の電流値を測定した。結果を第4図に示す。CMC-GOD層の電極系の出力をAで、また、CMC層だけの電極系の出力(プランク出力)をBでそれぞれ示す。図より明らかのように、Aの出力はアスコルビン酸の濃度増加とともに増大し、一方Bの出力も同様な増加がみられる。これはアスコルビン酸に対する各々の電極系の感度がほぼ等しいことを示している。これより、両電極系の出力の差(A-B)を検出するとグルコースに基く電流値が得られる。すなわち、2組の電極系を用い

-7-

きる。電極系を構成する方法の一例としては、3本の銀リードを基板上に印刷した後、2本のリード先端部の上にだけカーボンペーストを印刷し、絶縁層をコートした後、銀が露出している残り1本のリード先端部について、その表面を処理して塩化銀を形成し、銀／塩化銀電極とするなどがある。

親水性高分子としてはCMCの他にゼラチンやメチルセルロースなども使用でき、デンプン系、カルボキシメチルセルロース系、ゼラチン系、アクリル酸塩系、ビニルアルコール系、ビニルビロリドン系、無水マレイン酸系のものが好ましい。これらの吸水性あるいは水溶性の親水性高分子を適当な濃度の溶液にしたものを塗布、乾燥することにより、必要な膜厚の親水性高分子層を電極上に形成することができる。

さらに、酸化還元酵素としては上記実施例に示したグルコースオキシダーゼに限定されることはなく、アルコールオキシダーゼやコレステロールオキシダーゼなど種々の酵素を用いることができ

ることにより電極活性な物質による誤差を大幅に低減することができる。この様な効果はアスコルビン酸以外にも、尿酸などについても認められた。

この様に、2組の電極系を設け、一方の電極系に親水性高分子-酵素層、他方の電極系に親水性高分子層だけを形成して、センサを構成することにより、妨害物質を含む試料液中の基質濃度を精度よく測定することができる。

上記において、両方の電極系にCMC-GOD層を形成した後、一方の電極系についてのみレーザ照射による局部加熱、紫外線照射などを施すことによりGODを失活させて、プランク出力用の電極系としても良い。こうすると酵素活性以外は両電極系の構成が同一となり、両電極系の妨害物質による出力電流をさらによく一致させることができ、センサ検出精度を向上することができる。

また、以上の実施例においては電極部分が測定極と対極の2電極からなる電極系について述べたが、電極系を銀／塩化銀を加えた3電極から構成することにより、さらに精度を向上することができる

-8-

る。

発明の効果

以上のように、本発明のバイオセンサは、電極系に親水性高分子と酸化還元酵素からなる酵素反応層を形成することにより、また、さらには2組の電極系を設け、一方の電極系に親水性高分子と酸化還元酵素からなる酵素反応層を、他方の電極系に親水性高分子層あるいは親水性高分子と失活させた酸化還元酵素からなる層をそれぞれ形成することにより、信頼性の高い応答を得ることができる。さらに、電子受容体を担持する必要がないため、簡略な構成とすることができ、安価で保存性に優れたバイオセンサを提供することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例であるバイオセンサの断面図、第2図は電極部分の斜視図、第3図および第4図はバイオセンサの応答特性図、第5図は従来のバイオセンサの分解斜視図である。

1……絶縁性の基板、2, 3, 3'……リード、

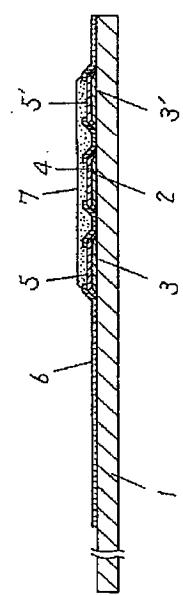
4, 9, 9' ……測定極、5, 5', 8, 8' ……
 対極、6 ……絶縁層、7 ……C M C - G O D 層、
 10, 10' ……参照極、11 ……保持枠、12
 ……多孔体、13 ……カバー。

代理人の氏名 幸理士 中尾敏男 ほか 1 名

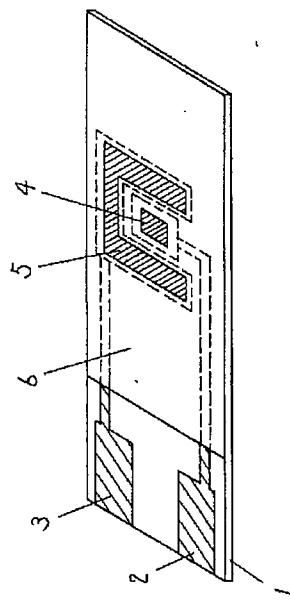
-11-

1 ……絶縁性の基板
 2, 3, 3' ……リード
 4 ……測定極
 5, 5' ……対極
 6 ……絶縁層
 7 ……C M C - G O D 層

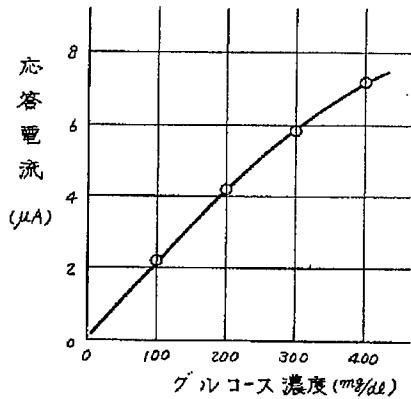
第 1 図



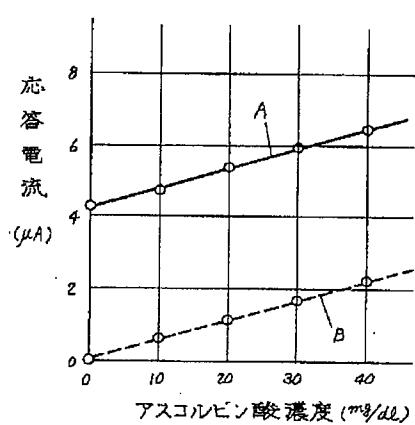
第 2 図



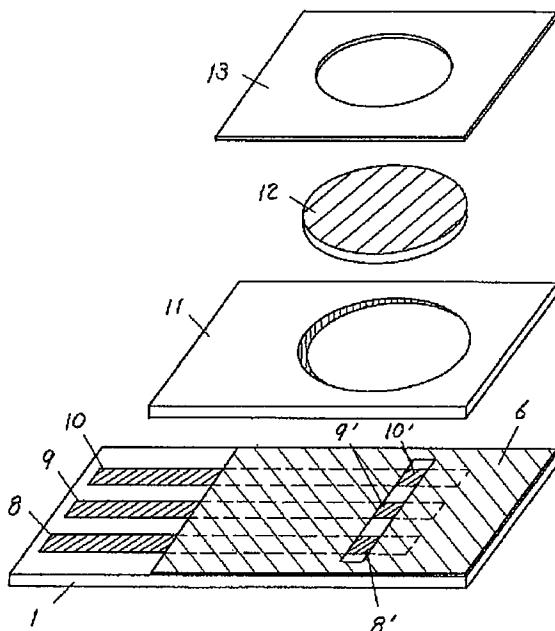
第 3 図



第 4 図



第 5 図



【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成6年(1994)11月8日

【公開番号】特開平1-253648

【公開日】平成1年(1989)10月9日

【年通号数】公開特許公報1-2537

【出願番号】特願昭63-80829

【国際特許分類第5版】

G01N 27/327

【F I】

G01N 27/30 353 J 7363-2】

手 続 换 正 書

平成6年4月6日

特許庁長官殿

1 事件の表示

昭和63年特許願 第80829号

2 発明の名称

バイオセンサ

3 補正をする者

事件との関係 特許出願人
住所 大阪府門真市大字門真1006番地
名称 (582) 松下電器産業株式会社
代表者 森下洋一

4 代理人

〒571
住所 大阪府門真市大字門真1006番地
松下電器産業株式会社内
氏名 (7242) 井端士 小堀治明
(ほか2名)

[連絡先 電話 03-3434-9471 知的財産権センター]

5 補正により増加する請求項の数

0

6 補正の対象

明細書の発明の詳細な説明の欄

7 補正の内容

(1) 明細書第3ページの第1行目の「容を電気化学的に酸化し、」を「容体を電気化学的に酸化し、」に補正します。